

# 技術力開け新市場

静岡県西部地域の中小企業などが新商品や新技術を紹介する「ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu 2014」(中日新聞東海本社後援)が二十二日、二日間の日程で開幕した。会場のアクトシティ浜松(浜松市中央区)には企業の営業担当者ら約四千四百人が来場し商談を展開。出展企業の中には、持ち前の技術を活用して異分野に参入し、新市場開拓を目指した製品も目立った。

## 県西部の企業 ビジネスフェア出展

自動車などの精密部品加工を手掛ける原田精機工業(浜松市北区)は、二〇〇七年から航空宇宙産業に本格参入。これまでに感星探査機や超小型人工衛星などを独

自開発してきた。今回は、打ち上げた小型衛星が得たデータをレーザー光で送信し、地上局で集光して情報を取り出す独自システムを初披露した。

現在も開発中で、二年後の製品化を目指す。原田浩利専務は「従来より安価で、宇宙の情報を民間企業でも自由に活用できるようにしたい」と意気込んでいる。

工作機械部品製造の大弥精機(磐田市)は、リーマン・ショックを受けて落ち込んだ工作機械関連に続く新事業の開拓を模索。北海道の業者からの呼び掛けでそばの製麺機製造を始め、今年五月に新製品を発売した。

自社の軸受け技術を活用したスクリーンの回転により、腰のあるそばができるという。四月からは新製品を使ったそばのアンテナシ

ヨップも磐田市内に開店。松原正基社長は「工作機械メーカーは生産の海外移転が進んでおり、食品機械を新たな事業の柱にしたい」と話す。

遊具や輸送機器のシート材などを製造する浜口ウレタン(浜松市西区)は、東日本大震災を機に救命員などのマリン事業に乗り出した。今回は穴が開いても沈まないウレタン製の救命ボートにジェットエンジンの船外機を取り付けた改良機を初出展。浜口弘睦社長は「海外展開は考えておらず、新分野を開拓して国内の市場を広げたい」という。

フェアは浜松商工会議所、浜松信用金庫が主催、遠州信用金庫などが共催し八回目。県内外から二百五十二の企業・団体が出展している。二十四日は午前十時～午後四時。入場無料。



シート材 救命ボート  
 工作部品 そば製麺機  
 精密部品 宇宙産業

- ①ウレタン製の救命ボートを出展した浜口ウレタンの浜口弘睦社長
- ②5月に発売したそばの製麺機を売り込む大弥精機の松原正基社長
- ③人工衛星からのデータを受け取るパラソラアンテナなどの独自開発製品を紹介する原田浩利専務(左)いずれも浜松市中央区のアクトシティ浜松で